

いちよし ジャパン成長株ファンド

追加型投信／国内／株式

愛称

天の川

あまのがわ

お申込みの際は「投資信託説明書（交付目論見書）」をよくお読みください。

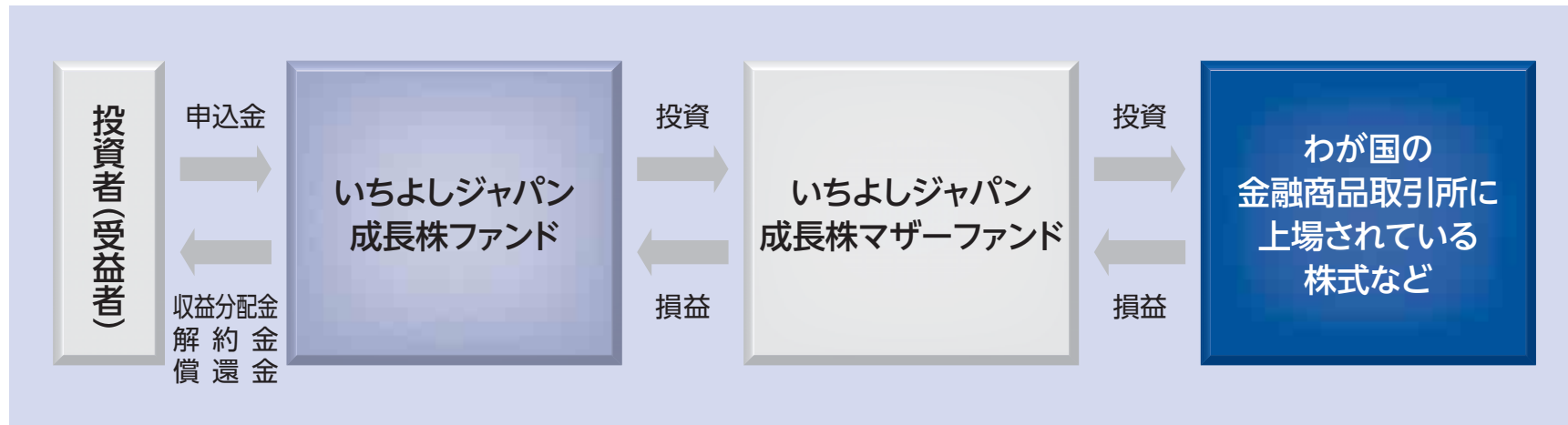
●設定・運用は

 いちよしアセットマネジメント

商号等：いちよしアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第426号
加入協会：一般社団法人 投資信託協会
一般社団法人 日本投資顧問業協会

1. わが国の株式(上場予定を含みます。)を主要投資対象とします。
 - ・ いちよしジャパン成長株マザーファンド(以下、「マザーファンド」といいます。)受益証券への投資を通じて、わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。
2. 企業規模(大型株と中小型株の区分など)に関わらず、成長性が高く、中長期的に投資魅力が高いと判断される銘柄に投資します。
 - ・ 大型株と中小型株の投資配分については予め限定せず、マーケット環境に応じて柔軟にコントロールします。
 - ・ 企業のライフサイクル＝「創業期」、「成長期」、「成熟期」、「復活期」の各局面において、業績拡大が見込まれる銘柄を発掘し、より多くの収益機会を捉えた運用を行います。また、短期的に株価が過小(過大)評価される局面では、パフォーマンスの最大化を目指した運用を行います。
 - ・ 今後、大きな成長が見込まれるテーマを捕捉し、それに関連する企業への投資を通じて収益獲得を目指します。
3. 運用にあたっては、「株式会社金融データソリューションズ」が開発した定量評価分析ツールおよび「株式会社いちよし経済研究所」のボトムアップ・リサーチ力を活用します。

当ファンドはファミリーファンド方式で運用を行います。

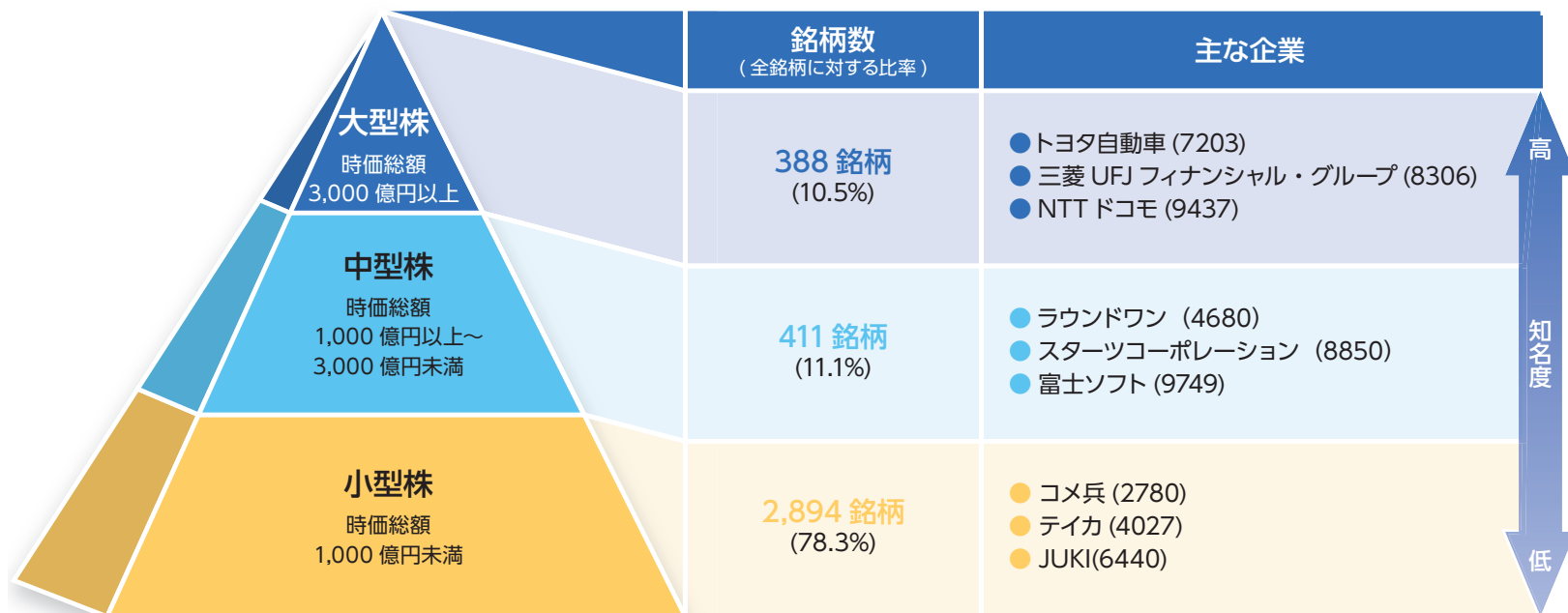


※ ファミリーファンド方式とは、投資者(受益者)からの資金をまとめてベビーファンドとし、その資金をマザーファンドに投資することにより、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。

大型株、中型株、小型株の分類について

上場株式のうち、時価総額（株価×発行済株数）の規模により、大型株、中型株、小型株に大きく分類できます。一般的に、大型株は規模が大きく知名度の高い企業が多いですが、中小型株には規模が小さく知名度は低いものの、独自のビジネスモデルで高成長している企業が少なくありません。また、中小型株の企業数は上場株の約9割を占めています。

■日本株市場の時価総額規模別の銘柄数分布



※ 上記の図は一般的な分類の考え方について説明したものです。当ファンドが実際に投資する銘柄には、上記「大型株、中型株、小型株」の分類から外れるものもあります。また、上記銘柄に投資を行うことをお約束するものではありません。

※ Bloombergデータ(2018年3月末現在)よりいちょしアセットマネジメント作成

企業規模(大型株と中小型株の区分など)にこだわらない柔軟な運用

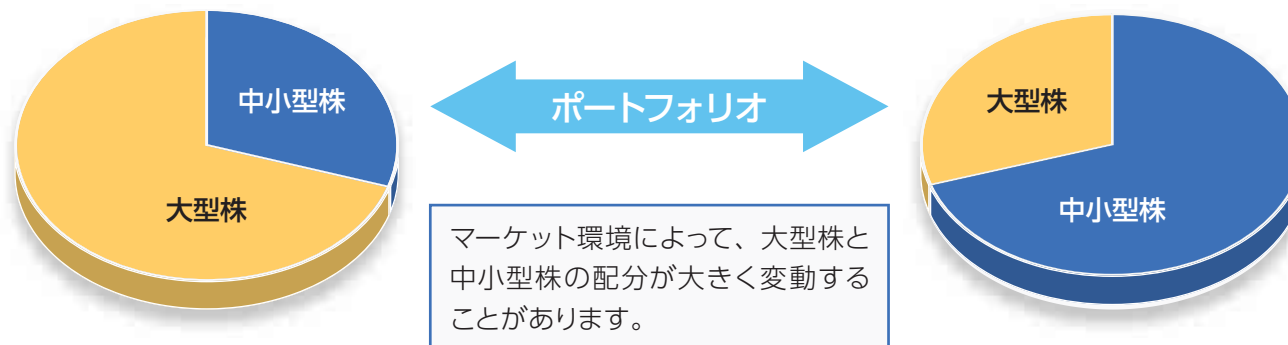
マーケット環境によって、大型株が優位な局面と中小型株が優位となる局面は交錯しますが、当ファンドでは、状況変化に応じて大型株と中小型株の組み入れを柔軟に変化させることで、ポートフォリオの収益性を追求することが出来ます。

大型株が優位な局面

- 金融緩和、景気拡大期の初動で金融相場の色彩が強い局面
- 外国人投資家が日本株を大幅に買い越す局面
- 為替が円安に進行する(輸出製造業中心に業況改善が期待される)局面 など...

中小型株が優位な局面

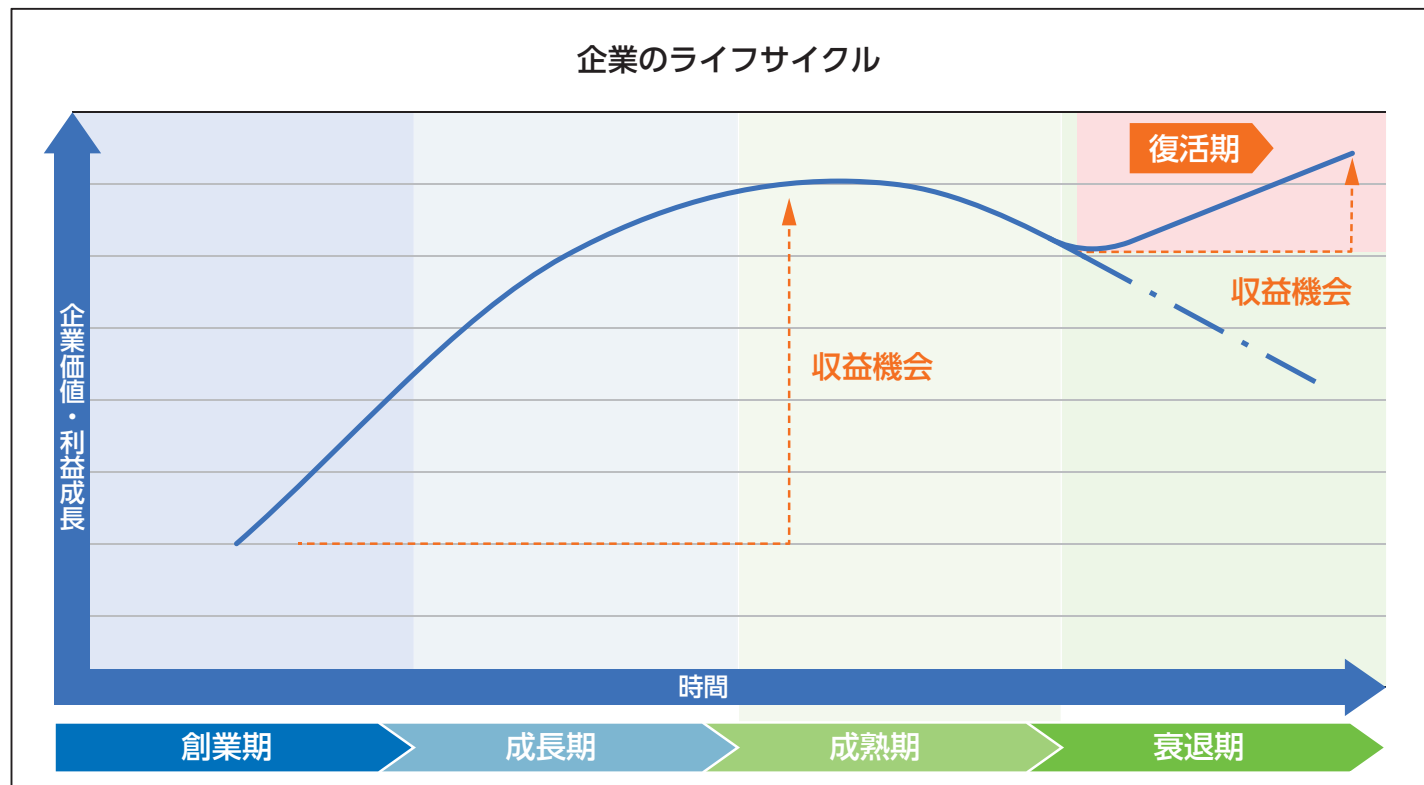
- 景況感が回復し、業績相場の色彩が強まる局面
- 個人投資家の取引が活発化する(株式市場の売買代金シェアが拡大する)局面
- 新規公開が増加し、中小型株に注目が集まる局面 など...



※ 上記は資産配分のイメージ図であり、実際の資産配分を示すものではありません。

（中長期的な観点）企業の成長サイクルに注目して収益機会を捉えます。

企業の成長サイクルにおける各局面＝「創業期」、「成長期」、「成熟期」、「復活期」を見極め、各局面において業績拡大が見込まれる銘柄を発掘し、収益機会を追求します。

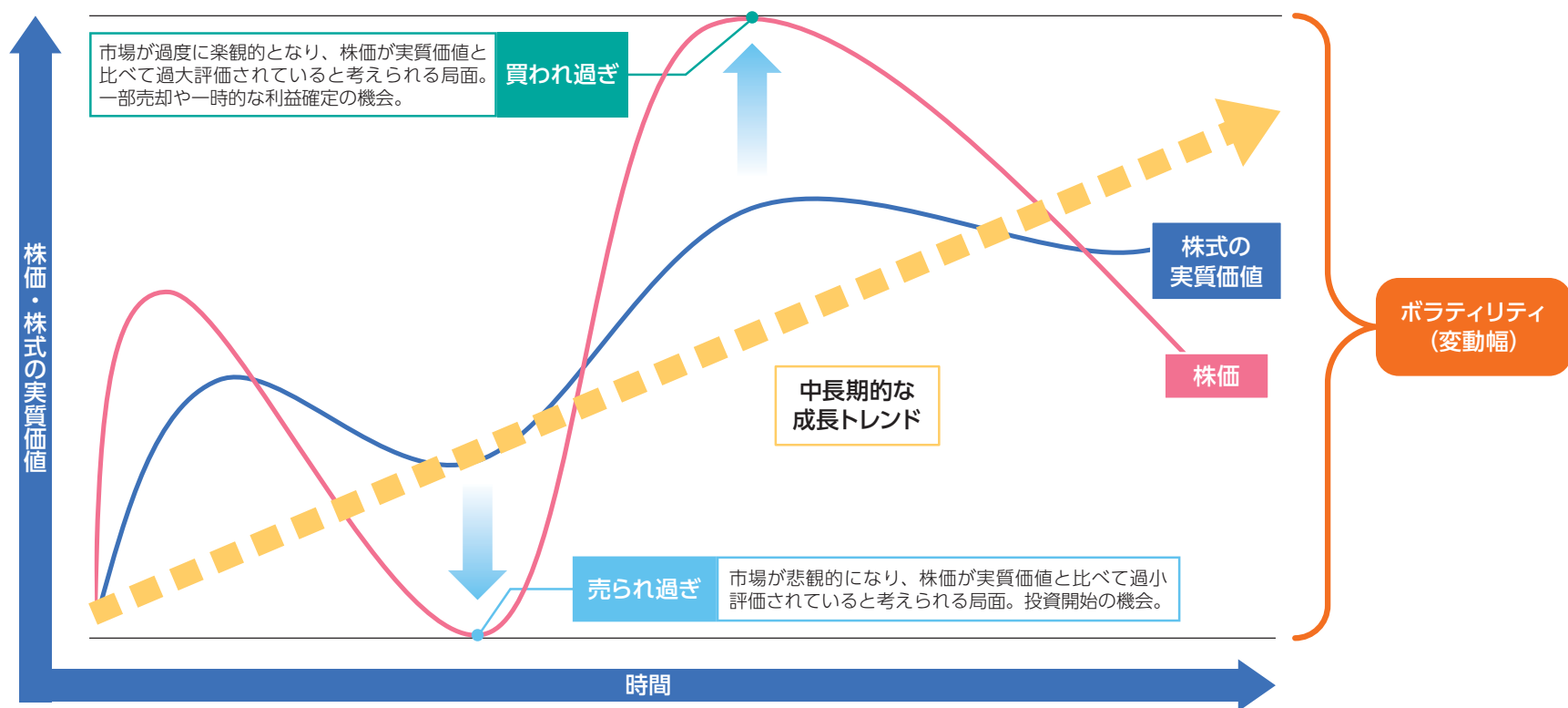


※ 上記はイメージ図であり、実際の企業価値を示したものではありません。また、将来の実現性またはファンドの運用成果を示唆・保証するものではありません。
※ 将来の市場環境の変動等により、上記のような運用ができない場合や当該運用方針が変更される場合があります。

(短期的な観点) パフォーマンスの最大化を目指した運用手法

株式市場でボラティリティ(変動幅)が高まると、短期的に株価が過小(過大)評価される場合があります。こうした局面を収益拡大のチャンスと捉え、パフォーマンスの最大化につなげていく運用手法です。

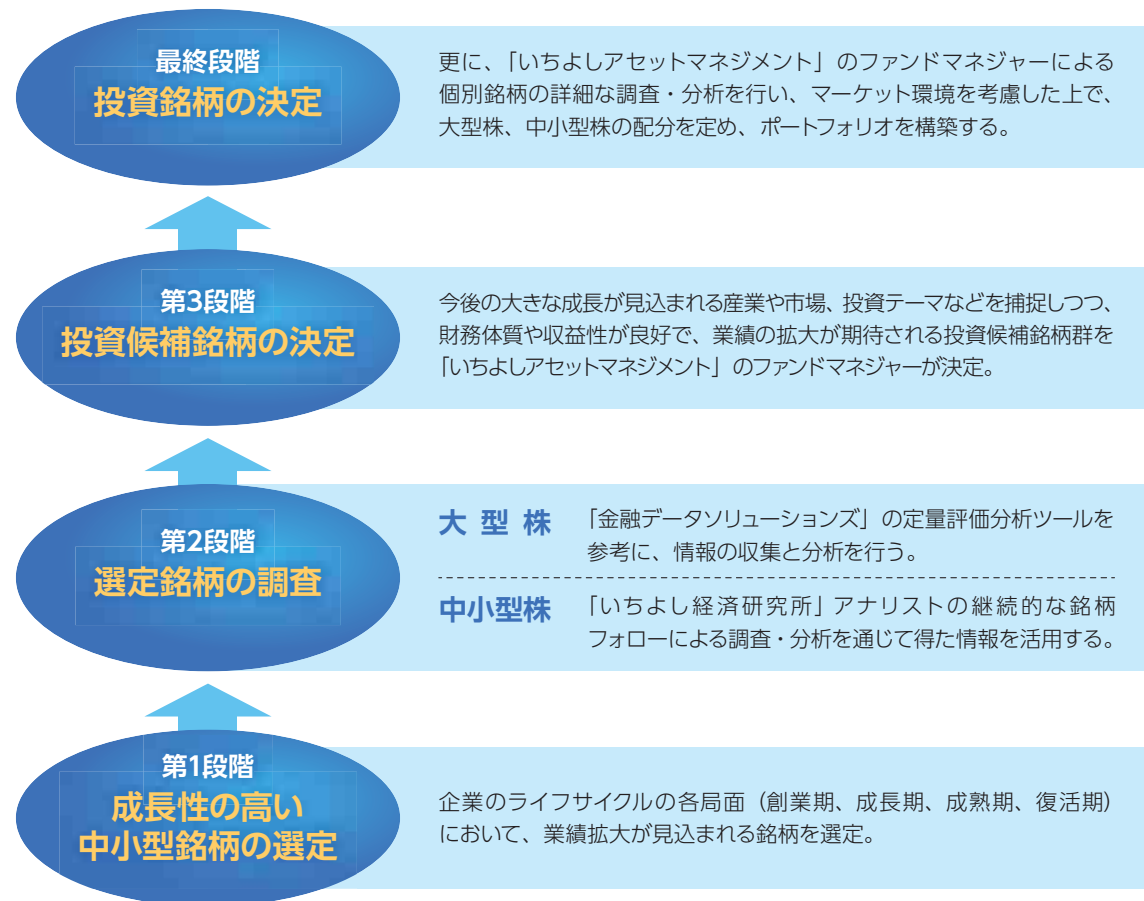
■株式の実質価値と株価の変動イメージ



- ※ 上記はイメージ図であり、将来の実現性またはファンドの運用成果を示唆・保証するものではありません。
- ※ 将来の市場環境の変動等により、上記のような運用ができない場合や当該運用方針が変更される場合があります。

ポートフォリオの構築方法

大型株については、「金融データソリューションズ」の定量評価分析ツールを活用し、中小型株については、「いちよし経済研究所」のボトムアップ・リサーチ力を活用しながら銘柄選定を行います。



※ 将来の市場環境の変動等により、上記のような運用ができない場合や当該運用方針が変更される場合があります。

① 大型株 <定量評価分析ツールの活用>

市場全体から投資対象となる銘柄を選別する場合、定量評価分析ツールによる銘柄スクリーニングが重要となります。

「いちよしアセットマネジメント」では、「金融データソリューションズ」と提携して、精度の高い有効な定量評価分析ツールを構築しています。

※「金融データソリューションズ」は、金融工学を駆使した様々なデータ分析ツール、運用モデルの開発等を行なっています。

② 中小型株 <ボトムアップ・リサーチ>

中小型株のリサーチにあたっては、中小型成長株の発掘で高い実績を持つ「いちよし経済研究所」のボトムアップ・リサーチ力を活用します。

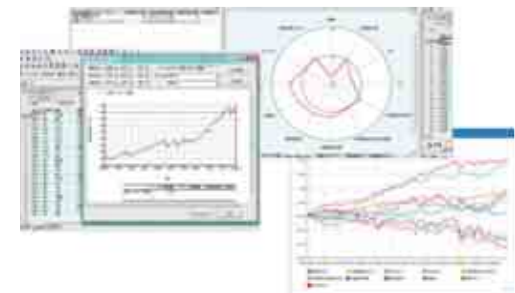
※「いちよし経済研究所」は、18名のアナリストが所属し、中小型株の調査・分析では国内最大級の調査体制を持つ調査機関です。

※J-MONEY日本語版「ベストリサーチハウス・ランキング」《新興市場部門》2004年～2017年まで14年連続第1位を獲得。

※ 2018年4月末現在。上記の評価は過去の一定期間の実績を評価したものであり、将来の成果等を保証するものではありません。

「いちよしアセットマネジメント」のファンドマネジャーによるリサーチ

銘柄選択にあたっては、「金融データソリューションズ」、「いちよし経済研究所」との連携に加えて、「いちよしアセットマネジメント」のファンドマネジャー自身も企業調査や決算説明会などに積極的に参加し、情報の精査・分析を行っています。

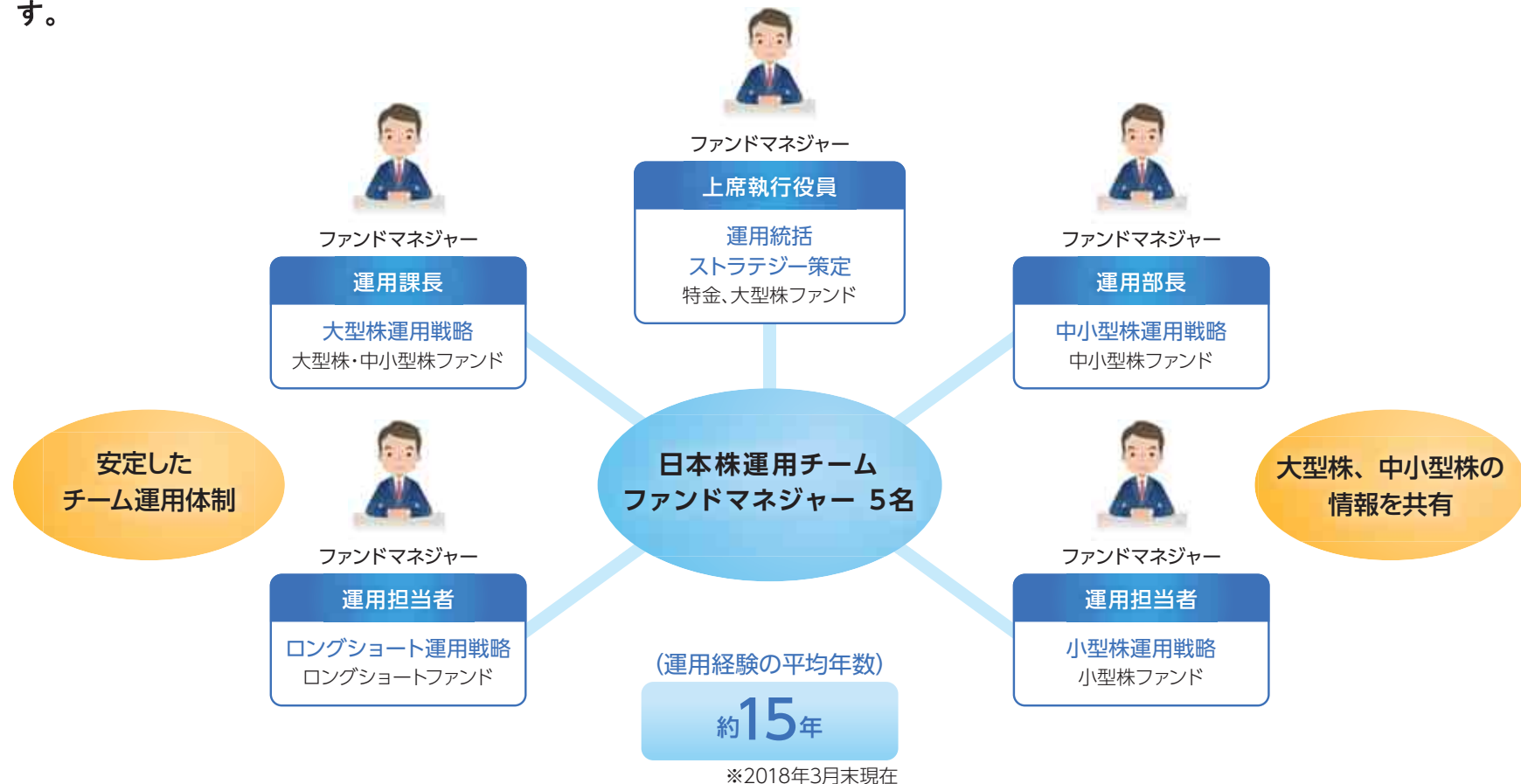


※ 将来の市場環境の変動等により、上記のような運用ができない場合や当該運用方針が変更される場合があります。

「いちよしアセットマネジメント」の日本株運用チーム

経験豊富な5名の運用プロフェッショナルで構成

当ファンドの運用を担当する、「いちよしアセットマネジメント」の日本株運用チームは、5名の運用プロフェッショナルで構成されています。全てのメンバーが、ファンドマネジャーとアナリストを兼務しており、各メンバーは担当分野に基づいて調査対象をカバーしています。



※ 上記の運用チームに関する記載は、2018年3月末現在での運用体制を示したものであり、今後の組織変更によりメンバー構成や担当業務等が変更される場合があります。

成長力のある銘柄をいち早く捉える

様々な観点から、企業の競争力、本質的価値を見極めます。

活躍する市場の成長性

マーケティング力・機動性

経営者の資質

業界 No1 か? または Only1 か? (将来なれるか?)

保有する技術・商品・サービスの革新性

市場環境、経済情勢、流行、社会の変化等

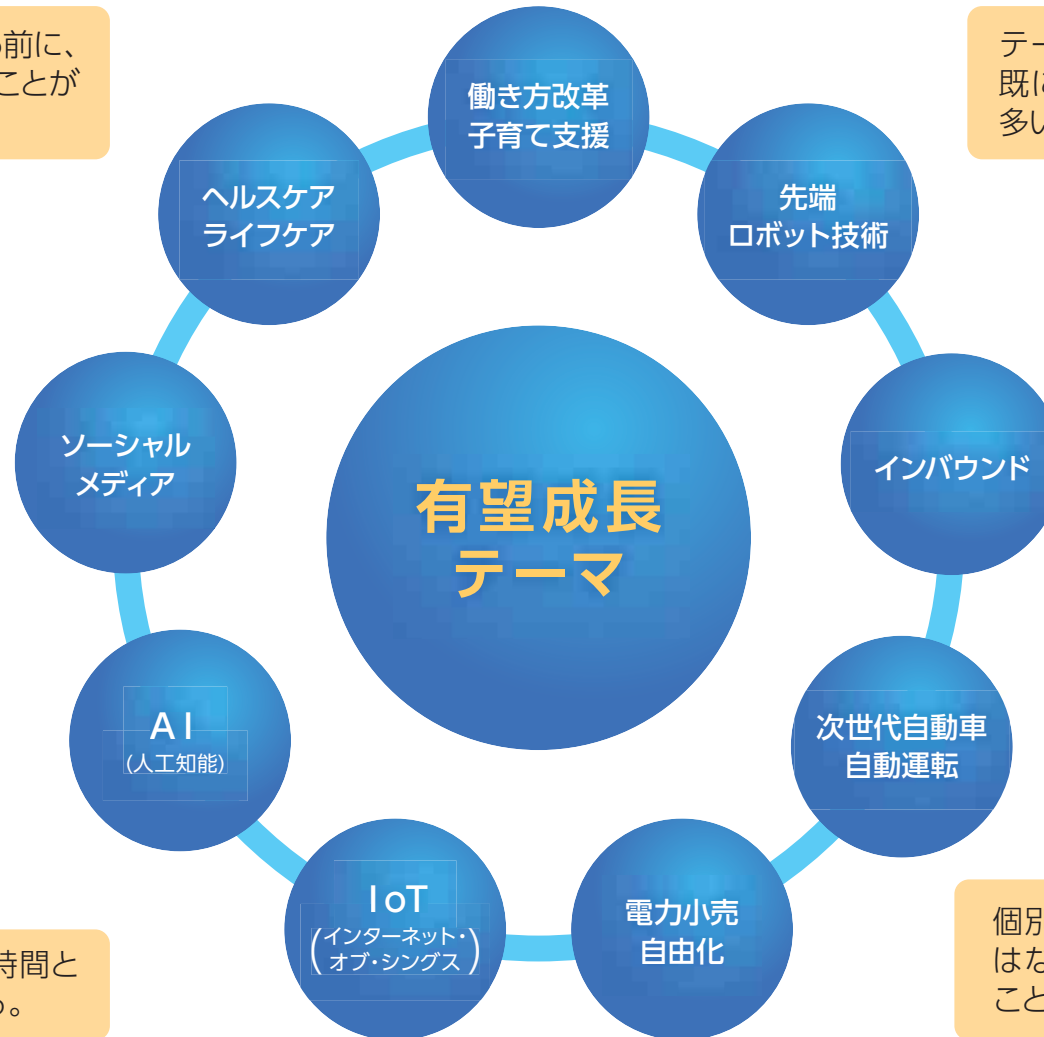
企業の
本質的価値
(エッセンシャル・バリュー)

※ 将来の市場環境の変動等により、上記のような運用ができない場合や当該運用方針が変更される場合があります。

リサーチ力がとても重要

テーマが注目され始める前に、銘柄をフォローしていることが大切。

テーマが顕在化した時には、既に割高となっている場合が多い。



成長テーマへの関心は時間と共に、常に変化し続ける。

個別テーマを追いかけるのではなく、横断的にカバーすることが大切。

※ 将来の市場環境の変動等により、上記のような運用ができない場合や当該運用方針が変更される場合があります。

AI(人工知能)

インターネットの検索エンジンやスマートフォンの音声応答アプリケーションなど、AI(人工知能)は日常の身近な商品・サービスに組み込まれており、今後の急速な進歩によって、それまで人が行っていた業務をAIが代替することが見込まれています。

銘柄紹介



ソフトバンクグループ(9984)

国内通信事業をはじめ、米国での通信サービスのスプリント事業、インターネット関連サービスのヤフー事業などを展開しています。ソフトバンク・ビジョン・ファンドにおけるIoT(Internet of Things)、AI(人工知能)分野への投資や、「Pepper」など人型ロボット、Watsonを活用した業務支援サービスなどのAI・機械学習事業を行っており、今後の成長が期待できます。

Gunosy(6047)

スマートフォン向けニュース配信アプリ「グノシー」、「ニュースパス」などを展開しています。一日数千本の記事の中から、同社の強みであるアルゴリズムによって、ユーザー属性にあった最適な記事を配信しています。広告配信事業も手掛けており、広告配信ロジックに加え、ライブ動画アルゴリズムの強化により既存事業拡大と、ニュース以外の事業領域を拡大することで成長が期待できます。

先端ロボット技術

人件費の上昇や人手不足などにより世界的に工場の自動化が進行しており、製造業では産業用ロボットの普及が進んでいます。製造業以外にも、建設現場や物流、介護や医療サービス分野での今後の導入が見込まれており、市場の拡大が期待されています。

銘柄紹介



ファナック(6954)

CNC(コンピュータ数値制御)装置などのFA(ファクトリーオートメーション)事業、産業用ロボット事業、切削加工機などのロボマシーン事業などを手掛けています。例えば、FIELD system (FANUC Intelligent Edge Link & Drive system)は、製造現場の様々な機器を接続し、機械から収集された情報や熟練者のスキルをデータ化して活用することで、ラインや工場全体の最適化、自動化を行うサービスです。本事業は、既に国内で運用を開始しており、今後の成長が期待できるとみられています。

安川電機(6506)

ACサーボモータ、コントローラなどのモーションコントロール、産業用ロボット、鉄鋼プラント用電機システムなどのシステムエンジニアリングなどを手掛けています。生産設備の自動化ニーズは中国・アジアを中心に今後も増加が見込まれ、自動車・半導体・一般産業分野での成長や人協働ロボット関連製品の拡充などにより業績の拡大が期待できます。

※ 上記銘柄に投資を行うことをお約束するものではありません。

次世代自動車

自動車業界では、「CASE」(C:コネクテッド、A:自動運転、S:シェアリング、E:電動化)と呼ばれる四つの技術革新が同時に進行しており、100年に一度の技術革新期を迎えています。

銘柄紹介



トヨタ自動車(7203)

2018年1月にラスベガスで開催されたCES(コンシューマー・エレクトロニクス・ショー)で発表したコンセプト電気自動車「eパレット」は低床の箱型EVで、完全自動運転機能を搭載しており、ニーズに応じ、ライドシェアや移動ホテル、オフィス、物販店などに設備や内装を変えられます。

日本電産(6594)

EV・PHEV向けトラクションモーターシステムを開発しており、その他に電動パワステ用、ブレーキ用など様々な車載モーターの受注増加が見込まれます。車載関連での売上高を、2017年度の2,954億円から2020年度には6,000億円まで増加させる計画です。

ヘルスケア・ライフケア

日本の人口は、65歳以上が全体の27.7%(2017年12月現在)を占めており、今後も増加が予想されます。高齢化により医療費や介護費の負担も高まっており、その負担を抑制すべく先進的な医薬や医療機器の開発、持続可能な保険や介護制度の再構築などが課題となっているなか、ヘルスケア産業の拡大が今後も見込まれています。

銘柄紹介



富士製薬工業(4554)

注射剤などのニッチな分野に特化した製薬企業で、診断用薬(急性期医療)とホルモン剤(女性医療)を得意としており、X線造影剤では業界トップクラスです。女性医療領域では、更年期障害治療薬や月経困難症薬などの開発を行っております。新薬開発とジェネリック、医薬品製造受託事業を中期的な成長戦略としており、今後の業績拡大が期待できます。

タカラバイオ(4974)

研究用試薬などのバイオ産業支援事業、健康食品などの医食品バイオ事業、遺伝子医療事業など、遺伝子の基礎研究から遺伝子治療まで幅広い領域を手掛けています。腫瘍溶解性ウイルスHF10は国内で悪性黒色腫を対象に今年度中の承認申請を予定しており、TCR細胞療法及びCAR-T細胞療法については、大塚製薬と国内における共同開発・独占販売契約を締結しており、今後の開発の加速が期待できます。

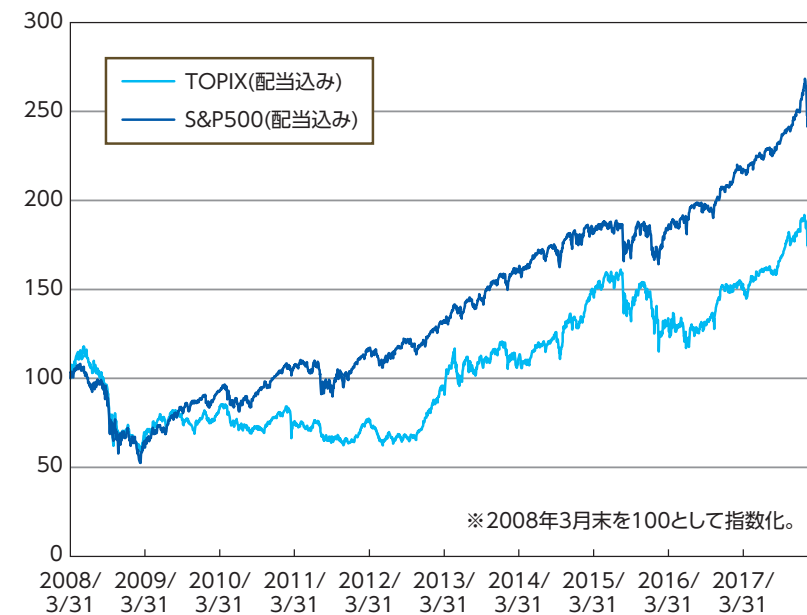
※ 上記銘柄に投資を行うことをお約束するものではありません。

日本株は相対的に魅力的な水準

日本の長期金利(10年国債利回り)の推移



日本と米国の株価推移



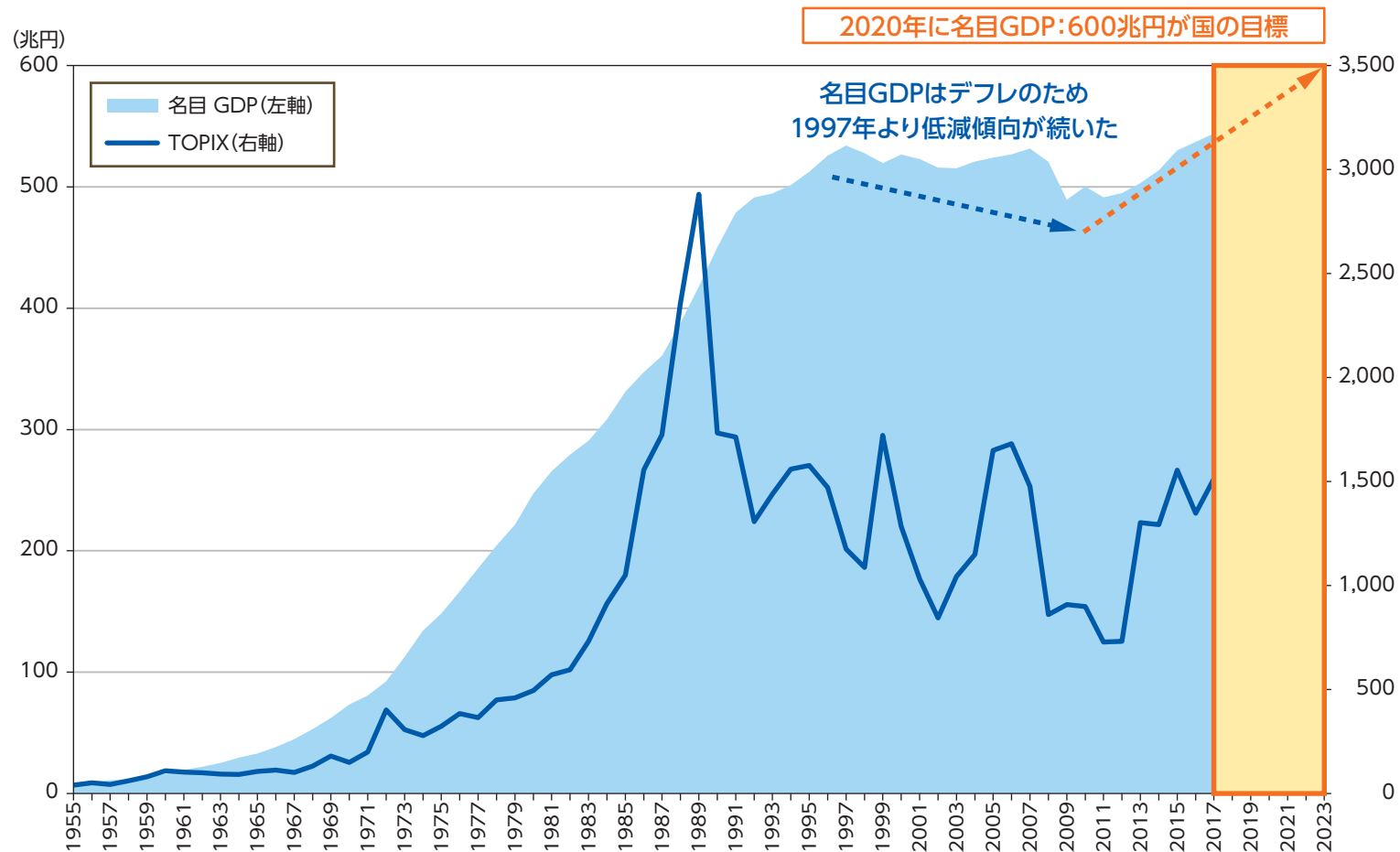
株価収益率 (予想 PER)

2018年 3月末	日本	米国
PER (倍)	14.6	20.8

※ Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

※ 上記は、過去の実績および将来の予想であり、将来の実現性または成果等を示唆・保証するものではありません。

日本の名目GDPと株価の動き

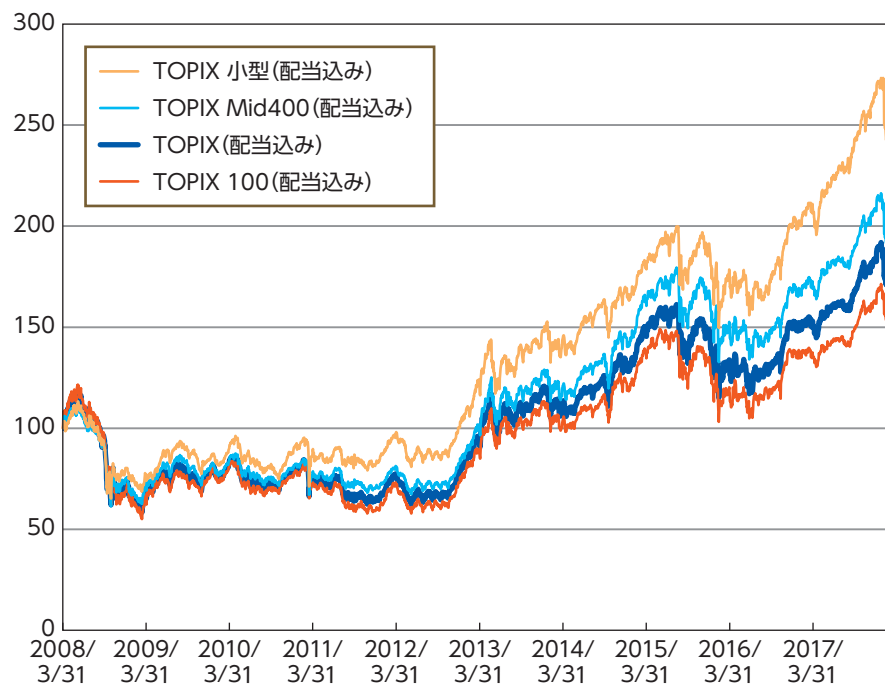


※ Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

※ 上記は、過去の実績および将来の予想であり、将来の実現性または成果等を示唆・保証するものではありません。また、矢印はイメージです。

アベノミクス開始以降、日本株は大型株、中小型株とも継続的に上昇してきました。
近年は、グロース株がバリュー株よりも優位な展開を見せてきました。

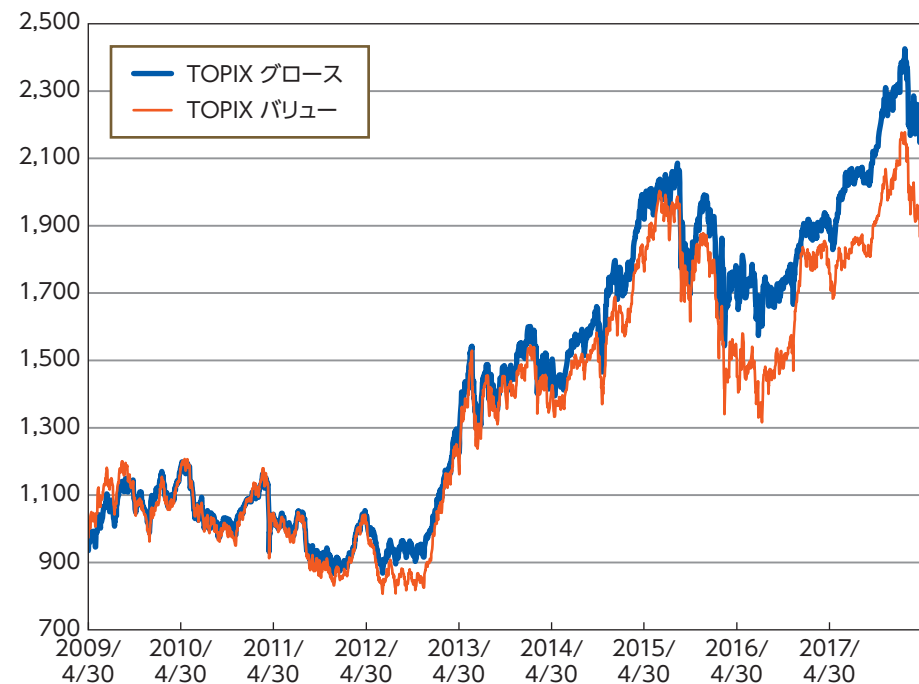
TOPIX各指数の推移



※ 2008年3月末を100として指数化

※ Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

グロース株 VS バリュー株



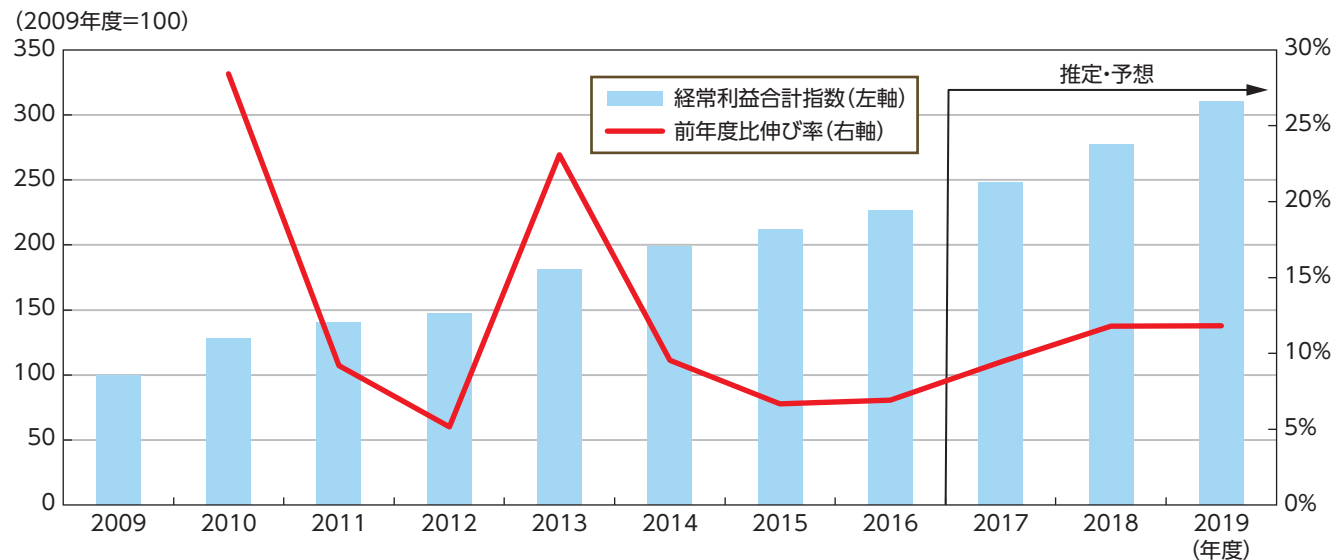
※ TOPIXグロース指数、TOPIXバリュー指数、2008年3月末～2018年3月末

※ Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

※ 上記は、過去の実績および将来の予想であり、将来の実現性または成果等を示唆・保証するものではありません。

企業業績は堅調な状況が続いており、今後も増益基調で推移することが期待されています。

「いちよし経済研究所」ユニバース銘柄の経常利益合計指数の推移



※ 経常利益合計指数＝いちよし経済研究所が継続フォローする銘柄について、経常利益の合計額の伸び率を用いて指数化したもの。

※ 上記は、過去の実績および将来の予想であり、将来の実現性または成果等を示唆・保証するものではありません。

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国の株式への投資を行いますので、組入れた有価証券の値動きにより、当ファンドの基準価額は大きく変動することがあります。

当ファンドは、元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により解約・償還金額が投資元本を下回り、損失を被る可能性があります。運用により信託財産に生じた利益または損失は、すべて受益者に帰属します。当ファンドは、預貯金とは異なります。預金保険または保険契約者保護機構の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

価格変動リスク	株式の価格動向は、個々の企業の活動や、国内および国際的な政治・経済情勢の影響を受けます。そのため、当ファンドの投資成果は、株式の価格変動があった場合、元本欠損を含む重大な損失が生じる場合があります。
株式の発行企業の信用リスク	当ファンドは、株式への投資を行うため、株式発行企業の信用リスクを伴います。株式発行企業の経営・財務状況の悪化等に伴う株価の下落により、当ファンドの基準価額が下落し元本欠損が生じるおそれがあります。発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金がほとんど回収できなくなることがあります。
流動性リスク	流動性リスクは、有価証券等を売却あるいは購入しようとする際に、買い需要がなく希望する時期に希望する価格で売却することが不可能となることあるいは売り供給がなく希望する時期に希望する価格で購入することが不可能となること等のリスクのことをいいます。市場規模や取引量が小さい市場に投資する場合、また市場環境の急変等があった場合、流動性の状況によって期待される価格で売買できないことがあり基準価額の変動要因となります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

その他の留意点	
クーリング・オフ	当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
収益分配金にかかる留意点	- 収益分配金は、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の利子・配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。したがって収益分配金の水準は、必ずしも計算期間中におけるファンドの収益率を示すものではありません。 - 受益者のファンドの購入価額によっては、収益分配金の全額または一部が、実質的には元本の一部払い戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。 - 収益分配金は、ファンドの純資産から支払われますので、収益分配金の支払後の純資産は減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中の運用収益以上に収益分配金の支払を行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比較して下落することになります。

当初信託設定日	2018年7月13日
決算日	毎年7月12日(休業日の場合は翌営業日)
購入単位	販売会社が定める単位 ※詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額(当初申込期間中は1口=1円) ※ファンドの基準価額は1万口当たりで表示しています。
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	1口単位として販売会社が定める単位 ※詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金(解約)申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
換金代金	原則として換金(解約)申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
申込締切時間	当初申込期間 販売会社が定める時間とします。 継続申込期間 午後3時までに販売会社が受け付けた分を当日のお申込み分とします。

購入の申込期間	当初申込期間:2018年6月18日～2018年7月12日 継続申込期間:2018年7月13日～2019年10月11日 ※申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。
換金制限	ファンドの規模および商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の換金には受付時間制限および金額制限を行う場合があります。
購入・換金申込 受付中止および 取消し	委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、受益権の購入・換金の申込みの受付を中止すること、および既に受付けた購入・換金(解約)の申込みの受付を取消す場合があります。
信託期間	原則として2028年7月12日まで ※委託会社は、信託期間の延長が受益者に有利であると認めたときは、信託期間を延長することができます。
繰上償還	次のいずれかの場合には繰上償還することがあります。 ・ファンドの純資産総額が10億円を下回ることとなった場合 ・繰上償還することが受益者のために有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
収益分配	年1回、毎決算時に、収益分配方針に基づき収益の分配を行います。 ※販売会社との契約によっては再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除の適用があります。 益金不算入制度は適用されません。

その他の事項については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

直接的にご負担いただく費用

購入時手数料	3.24%(税抜3.0%)を上限として、販売会社が定める手数料率を購入申込受付日の基準価額に乗じて得た額となります。 ※自動継続投資契約に基づいて収益分配金を再投資する場合は、手数料はかかりません。 ※購入時手数料は、商品および関連する投資環境の説明や情報提供など、ならびに購入に関する事務コストの対価です。
信託財産留保額	換金時の基準価額に 0.3% の率を乗じて得た額をご負担いただきます。

間接的にご負担いただく費用

運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に 年1.5552%(税抜 年1.44%) の率を乗じて得た額とします。 運用管理費用(信託報酬)は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日(当該終了日が休業日の場合はその翌営業日)および毎計算期末または信託終了のときに、信託財産から支払われます。 運用管理費用(信託報酬)の配分は以下のとおりです。		
	当ファンドの運用管理費用 (信託報酬) (年率)		年 1.5552% (税抜 年1.44%)
	配分	委託会社	年 0.7560% (税抜 年0.70%)
		販売会社	年 0.7560% (税抜 年0.70%)
		受託会社	年 0.0432% (税抜 年0.04%)
	役務の内容		
	委託会社	委託した資金の運用の対価	
	販売会社	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価	
受託会社	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価		
その他の費用・ 手数料	監査費用、目論見書等の作成、印刷、交付費用および公告費用等の管理・運営にかかる費用、組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、先物・オプション取引等に要する費用等が、信託財産より支払われます。 ◆監査費用は、監査法人などに支払うファンドの監査に係る費用です。 ◆これらの費用等は、運用状況等により変動するため、料率、上限額等をあらかじめ表示することができません。		

※上記、ファンド費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

委託会社	いちよしアセットマネジメント株式会社(信託財産の運用指図等)
販売会社	(ファンドの募集・販売の取扱い等)
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社(ファンドの保管・管理業務等)

「ご留意事項」

- 当資料は、いちよしアセットマネジメント株式会社が作成した金商法第13条第5項に規定する目論見書以外のその他の資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性・完全性について保証するものではありません。
- 当資料に掲載されている意見、数値、図表等は、特に断りのない限り当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに今後変更されることがあります。
- 当資料中のグラフ、数値等は過去のものまたはシミュレーションの結果であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。
- 当ファンドに生じた損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。
- お申込みの際は必ず最新の投資信託説明書（交付目論見書）で商品内容をご確認いただき、ご自身で投資の判断をしていただきますようお願いいたします。

 いちよしアセットマネジメント